

報 告 書

2017年8月10日

望月 厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	平成29年7月31日（月）13:00～8月1日（火）12:00	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	マニフェスト・サミット2017 政案で勝負する議会へ～次世代の地域経営を考える～ 衆議院第一議員会館 多目的ホール
	(2) 対 応 者	ローカルマニフェスト推進地方議員連盟 2017マニフェスト大賞実行委員会 早稲田大学マニフェスト研究所
3 目 的	時代が目まぐるしく変化する中、議会はどのように対応し次世代に備えるべきか？議会改革の最新動向を踏まえたうえで、「議員のなり手不足」「シチズンシップ」「公職選挙法改正」「東京都議会議員選挙結果と有権者意識」「AI・ロボティクス」などをキーワードに、2日間議論を展開。我が議会として、先進議会の事例を参考にして改革に向かいたいとの思いで参加する。	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p>1日目・7月31日（月）13:00～</p> <p>開会の挨拶 越田謙治郎 兵庫県議会議員</p> <p>号泣議員による政務活動費の問題で失墜した兵庫県議会が、議会改革度ランキングで都道府県1位になった経緯と実体験を紹介。政策で議会を変えていこうと呼びかけた。</p> <p>基調講演 北川正恭 早稲田大学名誉教授</p> <p>都民ファーストが圧勝した2017年東京都議会選挙の結果を総括。二元代表制と次世代の議会のあり方を説明。議会から地方を変え、地方から日本を変えていこう！と強調された。</p> <p>先進事例 立石隆教 小値賀町議会議長</p> <p>議員のなり手育成の観点から50歳以下に限って議員報酬を引き上げた取り組みを紹介。又、傍聴者の意見を求める模擬公聴会を開催するなどの改革を進めている。</p> <p>先進事例 中田進 浦幌町議会事務局議事係長</p> <p>議員のなり手不足・前回の統一選挙で、定数を減らしたにもかかわらず</p>	

欠員だ出たことを紹介。その後、詳細な項目で議会活動を検証し、・まちなかカフェDE議会・など開催し、住民との意見交換を重ね、国への提言にもつなげているとの事だ。

先進事例 川上文浩 可児市議会議員・清水克士 大津市議会局次長

通年議会の是非から考える・両者はいずれも議会改革のトップ市。両者の議論はとても面白いものだった。それぞれの立場での、地域課題を解決するための未来志向型の議会運営のあり方は、両者、議会の本質に迫るものだった。委員会代表質問の実施等、これまでにない新たなアイデアだ。

先進事例 笹川理 大阪府議会広報委員会委員長

大阪府議会における高校生への出前授業の取り組み・〇×札を持って参加する授業のあり方や授業前後の変化、支援学校での開催。本物へのこだわり。市民の力を高めるためのシティズンシップに取り組む議会に参考になる内容が多く語られた。

パネルディスカッション 公職選挙法改正と次世代の政素のあり方

逢沢一郎 衆議院議員・坪井ゆづる 朝日新聞論説委員・北川正恭 早稲田大学名誉教授・草間剛 横浜市議会議員

6月に公職選挙法が改正され、地方議会議員選挙でも、ピラが配れるようになった。衆議院政治倫理審査会会長の逢沢氏と坪井解説委員の政策型選挙に向けた見解が述べられた。

2日目・8月1日(火) 9:00~

調査報告：中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

『議会改革の傾向と課題~最新版議会改革度2016ランキング』

調査報告：青木佑一 早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員

『有権者の意識調査と政策マッチ~2017都議会議員選挙の実践から』

パワーポイントを使いそれぞれの調査報告が行われた。議会改革は、確実に質が向上している。政策と選挙の結びつきは、都議会議員選挙では、感じられない内容だった。

講演 神成淳司 内閣官房副政府CIO情報通信技術(IT)総合戦略室長

代理・慶應義塾大学 環境情報学部・医学部准教授

地域農産物の特性を踏まえた第一次産業分野の活性化~A1農業~

A1とは、熟練農業者の技能や技術をIT技術を使って、他の人が利用できる“形式知”に変換していく方法論と具体的手法の事で、今後の拡大、展開が期待されている。

農業領域を取り巻く環境⇒日本における、多くの構造的な課題

少子高齢化・人口減少⇒国内の食糧需要が減少することが見込まれる中、グローバルでは、新興国を中心に食糧需要の増加が推定される。

IoT・ビックデータ・ロボット・人工知能等利用⇒農業領域においても省力化、自動化に加え、ノウハウの形式知化による高度化が可能になり、生産性の飛躍的向上が期待できる。

	<p>稼げる体質への構造転換⇒付加価値(高品質・高機能化・安心・安全等)の高い農産物を生産する、新興国の需要をも取り込む期待ができる。</p> <p>農業の活性化⇒新たな雇用の創出を通じ地方創生に繋げていくが期待できる。農林水産業の成長産業化：就業者数5万人創出世予測している。</p> <p>A I 農業の特徴⇒ノウハウの核は状態把握・技能と知識のモデル化・対象産業と対象者の検討(栽培の方向性の検討・アイカメラなどを使った作業分析手法・学習コンテンツ【形式知】の構築・各自自習へ</p> <p>今後の課題⇒ビックデータが比較できない。帰属権利関係がはっきりしない(データは誰のものか不明瞭)◆データ連携プラットフォームの構築で解決していく◆Made In Japan から Made b y Japan へ</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	

(注)

- 1 この別紙は、視察先ごとに作成すること。
- 2 連名により作成することも可能。
- 3 この様式により難しい場合は、別の様式によることができる。